

Top

トップと語る

66

interview

株式会社トイファクトリー



株式会社トイファクトリー 代表取締役社長

藤井 昭文氏

◎聞き手

十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信

FUJII Akifumi

Toy Factory Co., Ltd.

当社は遊びクリエイションカンパニーなので、社員にはいつも遊びなさい、と言っています。私自身、やる時はとことんやりますが、休む時はガッツリ休みたいタイプです。社員にも自分たちのライフスタイルを大切に、楽しんでもらいたいです。そのために、自分の仕事を効率化できるよう工夫し、うまくいけば周りにも共有するなど、会社について自分事と考えて動くべきだと伝えています。

株式会社トイファクトリーは、1995年に創業し、今年28周年を迎えます。「中途半端なものづくりは行わない」という企業理念のもと、世界品質を目指し、快適性とエコを両立させた最新のものづくりに挑戦し続けてきました。現在では、キャンピングカーにとどまらず、海外輸出もされるドクターカーや官公庁向け特殊車両など、さまざまなジャンルの特装車の提案・開発も行い、モビリティの可能性を追求し新たな価値を創造しています。

今回はキャンプ場「トイの森」をお訪ねし、株式会社トイファクトリー 代表取締役社長 藤井 昭文氏からお話を伺いました。

手作りのキャンピングカーが原点

—— 1995年に創業され、社長一代で世界品質の企業を築かれました。沿革についてお話し願います。

●藤井社長（以下、敬称略） キャンピングカーの原点は、物心がついた時に、内装業の父が手作りでキャンピングカーを製作していたことです。当時、キャンピングカーで世界中を旅するテレビ番組がありました。その番組を見て父が製作し、それに乗って家族で旅行していました。当時は自動車にカーテンがあるだけでも珍しく、サービスエリアに停めてドアを開けると、観光バスの乗客が集まって見に来て、手洗い場、じゅうたんなどもあるので、びっくりされました。

反抗期になっても、父に「もっとこうしたら

どうか」など提案しながらキャンピングカー作りを手伝っていました。当社の車がヒットしたポイントとして「断熱性」がありますが、子どもの頃に冬の車中泊の寒さを体験したことで断熱へのこだわりが生まれ、会

社の成長のきっかけになりました。私が工業高校の建築科にいた時に、ハウスメーカーを見学したのですが、当時から断熱という言葉が出ていて、断熱による省エネで電気代が抑えられ、自然にも優しいということを学びました。そこで、建築用の断熱材を天井、壁、床に使用してみたら、劇的に暖かくなりました。

自動車も省エネの流れになると思い、経済産業省で自動車の断熱による燃料改善事例のデータを発表しました。当社の断熱材を使った車はノーマルの車に比べて1年あたりの燃料消費量がドラム缶1本分以上改善されました。エアコンの効きが非常に良くなるからです。

そのうちに大手自動車メーカーさんが「断熱について教えて欲しい」と言って来られるようになりました。

自動車メーカーとのコラボでドクターカーを開発

—— 大手自動車メーカーさんとコラボが始まった経緯をお話してください。

●藤井 数年前に大手自動車メーカーさんから国内最大の自動車ショーなどに出展するショーカーの依頼がありました。当初、他のメーカーがそのショーカーを完成させていたのですが、最後の確認会でダメだと言われたそうなので、ショーの3日前に「解体、デザイン、製造を3日間でやって欲しい」と当社に依頼がきま



十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信



ハイエースなどをベースに架装したバンコンタイプのキャンピングカーが主力商品

した。その時、私は沖縄工場にいましたので、岐阜にいた社員が自動車メーカーさんの本社工場に車を取りに行き、私は飛んで帰りました。帰りの飛行機でデザインを企画し、空港から社員に材料、シートの縫製などの指示を出し、その後5、6人のスタッフと何とか仕上げました。ショーに間に合って展示され、大変高い評価をいただき、自動車メーカーの責任者の方にも当社に興味を持っていただいたようです。それをきっかけにグループ会社の責任者の方も来社され、当社のいろいろな商品を見て、技術力を改めて評価いただき、共同で商品開発を行うことになりました。

当社のキャンピングカーを製造する技術を使って、さまざまな車のプラットフォームを作れることに気づき、まずドクターカーを開発しました。国内で販売しようと考えたのですが、ドクターカーは救急車と一緒に走らせなければならないといった各省庁の法律などの規制があり、難航しました。日本では10年かかると思い、海外に目を向けました。ケニア赤十字社に



ケニア赤十字社に寄贈したドクターカー



株式会社トイファクトリー
代表取締役社長 藤井 昭文氏

行き、現地の医療現場に連れて行ってもらったのですが、シートベルトもエアコンもない車で、天井に手をついてバランスをとりながら険しい道に揺られ、日中の気温が50度近くになる中をヘトヘトになって周りました。エアコンやシートベルトなどをしっかり装備したドクターカーを納入するだけでも医療関係者に喜んでもらえると考え、ドクターカーを国際赤十字に寄贈しました。半年間で約1,500人もの現地の方を搬送できたそうで、ケニアの大統領にも喜ばれました。

その後、グループ会社さんとの付き合いも深くなり、さまざまな特装車の企画を頼まれるようになりました。自動運転の消防車の設計開発、デザインを請け負ったこともあります。

災害時に役立つキャンピングカー

—— 自治体と災害協定などを締結され、積極的に地域社会に貢献されています。

●藤井 沖縄県知事が当社の沖縄工場に来られた時に「黒塗りのセダンよりも、災害時などにも使える公用車はどうか」と提案したとこ



対談風景／株式会社トイファクトリー 代表取締役社長 藤井 昭文氏(右)、十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信(左)

ろ、知事も賛同してくださりました。その車両をコンセプトに製品化したところ、国土交通省の許認可も下りたので、本格的に販売をスタートします。災害などの緊急時だけでなく、平時も使えるように考えて作りました。10人乗りのコミューターバス（別名「ミニバス」と呼ばれることもある小さなバス）で、平時は役所からの表敬訪問、イベントなどに活用できます。災害時は小さな病院や役所の出先機関、災害指揮車になります。運転席、助手席以外はシートの脱着が可能となっており、物資輸送にも使えます。できれば各市町村に1台ずつ導入してもらえると安心ですね。全国の何千台がいざという時に被災地に集まるシステムがあれば、病棟や生活する場所ができます。

今、東北以北や九州地方でキャンピングカーをお求めいただく一番の理由は、災害時にシェルターになるからだそうです。東海地方は大地震が来ると言われつつ、まだ来ていないので、全国の中で一番危機意識が薄いように感じます。東日本大震災で真っ暗な時に、ソーラーパネルで発電し蓄電もできる当社のキャンピングカーは、夜でも灯りがつけられるので本当に役に立ちました。テレビのニュースを見たり、携

帯電話を充電したり、狭い避難所で寝ていた被災者の方が、車の中でゆっくり寝られたりして、大変喜んでいました。被災地では食料やガソリンは比較的早く手に入りますが、住む場所の確保には時間がかかります。キャンピングカーは遊びだけでなく、災害時にも活用していただけます。

車でペットと旅する時代

—— ヒトだけでなく、ペットに対しての快適性も追求されています。

●藤井 ペットとの旅を考えるWith Dogモビリティ事業部を昨年発足しました。今、日本ではペットの数が15歳未満の子どもの数を上回っていますので、安心してペットと一緒に旅ができる車も作っています。例えば、ペットのために考えられたプレミアムスウェードという生地は軽くて強く、ソフトな手触りで、普段のお手入れも簡単です。また、ペットに車で留守番をしてもらう時のために、車のエンジンが停



プレミアムスウェード生地



オーナーさまの交流イベント



自動車専用ソーラーパネルシステム

止してもエアコンを動かせるクールコンプレックスを作っています。ペットを飼っているお客さまと話す中で、いろいろなヒントをもらえます。それを形にしてお客さまに見てもらい、「良かった」とか「使えない」などの声をまとめていくと理想の形が見えてきます。

キャンプ場も経営、 オーナーの憩いの場に

—— 2016年にオーナーさま限定の特別キャンプ場「トイの森」をオープンした経緯をお聞かせください。

●藤井 会社が急成長し、みんなが「この車をどう作ろうか」、「どう営業しようか」など、仕事に追われて原点の遊び心を忘れてしまった時期がありました。遊び心を取り戻すためにキャンプ場が欲しくなり、ここの廃キャンプ場を思い出し、見に来ました。大家さんは当社をご存じで、キャンプ場を探していると言うと、安く売ってくださるとのことで、半分勢いで買いました。雑草だらけの状態でしたが、社員総出で土地を開拓し、和室だったセンターハウスを板張りにして薪ストーブを置き、壁も自分たちで塗装し、手作りでリノベーションをしました。

このオーナーさま専用のキャンプ場を作ったときはアウトドアブームでどこのキャンプ場も予約が取りにくかったなので、大変喜ばれまし

た。名古屋から1時間ぐらいの距離で、オーナーさまがいらっしゃれば、親兄弟、親せき、友達などを連れてきても構いませんので、ステータスを感じてもらっています。利益は出ていませんが、アンテナショップ的な役割を果たしています。キャンプ場に怒った状態に来る人はいませんので、当社の車の改善点なども優しく教えてくださいます。また、1年に数回、キャンピングカーの購入を検討している方を対象に、宿泊体験会を開いています。新車を並べて展示し、オーナーさまが応援に来て、メリットやデメリットを本音で話してくださるのですが、それを聞いた参加者の約9割の方に購入いただいています。トイの森以外でもオーナーさま限定のキャンプイベント「トイキャン」を毎年開催しており、オーナーさまの車が300台くらい集まります。

全国初の 自動車専用ソーラーパネルシステム

—— 自動車専用ソーラーパネルシステム開発など、SDGsにも積極的に取り組まれています。

●藤井 SDGsが言われるずっと前から、キャンピングカーは自然を楽しむものなのに、アイドリングしながら暖を取る人が多いのが気になっていました。そこでソーラーパネルなら、空気を汚さず発電できて便利だと思ったのですが、当時は自動車専用のパネルはありませんで



尾州織や天然ヒノキなど地元素材を活かしたデザインが人気の「BADEN」特別仕様車

した。沖縄工場を作った時に、沖縄シャープ電機さんから、シャープ本社の責任者の方を紹介してもらいました。そこで、自動車専用のパネルを作って欲しいとお願いしました。

当社は沖縄県立南部工業高校が、オーストラリアで開催されるソーラーカーレースの世界大会に出るための支援をしていました。ボディーの作り方、ソーラーパネルの貼り付け方などを伝授しながら、「チーム沖縄」として出たところ、ケンブリッジ大学、マサチューセッツ工科大学を制するも総合成績37チーム中13位という成績でした。ソーラーカー製作費、渡航費など約1800万円をかけて、生徒と一緒にダーウィンからアデレードまで3,500kmを1週間で走り抜けました。このレースで集めたデータをシャープさんに提示すると、ご評価いただき、業界初の本格的な車載式ソーラーパネルシステムを作ってくれることになりました。その後、キャンピングカーにソーラーパネルを載せるのは当たり前になり、他社も参入しています。自然のエネルギーを有効に使えるようになりうれしいです。

遊び心を忘れずに 良いものをつくる

— 人材育成についてお聞かせください。

●藤井 若い社員の採用を増やしていて、今年、社員数が150人を超えそうです。今の若者



新商品FIAT DUCATOの車内

は仕事の内容を重視し、仕事が楽しいと感じなければ働きたくない人が多いようで、当社にとっては追い風が吹いています。アウトドアブームが到来して、今まで自然から遠ざかっていた若者が山や海に車で行くようになってきました。家族やサークルでキャンプを楽しんだ人たちは、社会人になっても何らかの形で関わりたいと思って当社を志望してくれます。時代の流れは速いので、できるだけ若い世代の感覚に任せて、若い世代がカッコイイと思うものを打ち出していきたいです。

当社は遊びクリエイションカンパニーなので、社員にはいつも遊びなさい、と言っています。私自身、やる時はとことんやりますが、休む時はガッツリ休みたいタイプです。社員にも自分たちのライフスタイルを大切に、楽しんでもらいたいです。今の時代は残業をせず、有休をフル消化できるような会社にならなければならないと思っています。そのために、自分の仕事を効率化できるよう工夫し、うまくいけば周りにも共有するなど、会社について自分事と考えて動くべきだと伝えています。



棚を自由にカスタマイズできる「MOBILITY UNIT HACO×HACO」

当社は小規模なので、開発、営業などいろいろな部署の社員が軸になって課題を解決する体制になっており、小回りが利いて非常に早く改善できます。組織に縛られず、自由な発想と遊び心を持ち続け、少しコストが高くなっても良いものを作り、お客さまに感謝されることを大切にしていきたいです。

ビジネスジェットや 空飛ぶ自動車の事業も手がけたい

— 今後の経営の中で実現したい事や夢などをお聞かせください。

●**藤井** プライベートジェットやクルーズ船の内装をやりたいという夢があります。カリフォルニアに行った時に、世界シェア7割のビジネスジェットメーカーの責任者の方とお会いし、「アジアのいい場所にいるのになぜビジネスジェットの事業をやらないのか」と言われました。ブルネイの王族は、1人1機の飛行機を持っていて、飛行機が汚れるとカリフォルニア

から飛んで行って磨いて帰ってくる仕事があるそうです。日本の方がブルネイに近いので、代わりにやって欲しいと頼まれました。まだ航空機の知見が足りないので勉強していますが、ビジネスの内容はキャンピングカーを作るときとほとんど同じでした。日本で空飛ぶ自動車などと合わせて手がければ面白い事業になるでしょう。自動車産業は最大の変革期にあり、その波に乗って会社を存続させなければなりません。

— 本日は楽しいお話を聞かせていただきありがとうございました。

(対談日：2023年1月17日)



キャンプ場「トイの森」にて

会社概要

- 本 社：岐阜県可児市瀬田800-1
- 創 業：1995年8月 ● 設 立：1999年8月
- 事業内容：■キャンピングカー、政府 官公庁向け特殊車両、医療機関向け特殊車両、放送局向け特殊車両、海外向け特殊車両、福祉特殊車両 の設計・開発・製作・登録・販売
 - 自動車内外装製作
 - ヨーロッパ車両輸入販売、RVパーツ輸入販売、アウトドア用品販売、ミニベロ 小径自転車販売
 - 車検・整備 認証工場 ■アウトドアイベント企画、キャンプ場経営
- 関連会社：株式会社トイファクトリーインターナショナル
- 事業所等：東京店、湘南店、東北店、土岐店、トイの森 (キャンプ場)